

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

マイライブラリー:0162

(サウジアラビア関連:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html>)

(注)本稿は 2010 年 11 月 22 日、23 日の 2 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

掲載日:2010.11.23

前田 高行

迫るサウド家の世代交代

目次	頁
1. 国王、脊椎痛治療のため米国へ	1
2. 皇太子ほかの王族閣僚にも健康不安	2
3. 権力の世襲を進める第二世代	2
4. 予測される当面の動き	3

1. 国王、脊椎痛治療のため米国へ

イスラム最大の行事でありサウジアラビアにとって最も重要な宗教行事であるハジ(マッカ巡礼)が最高潮に達した 11 月 12 日の金曜日、リヤドの Royal Court (王宮府)から「アブダッラー国王が腰痛治療のため入院する」との突然の発表があった¹。既に 7 月頃から国王の執務ペースがダウンしており、サルコジ仏大統領との会談が二度にわたって延期されるなど、その健康状態が懸念されていた²。その週の閣議は第二副首相のナイフ内相が首相である国王に代わって取り仕切っており(第一副首相のスルタンもモロッコで静養のため不在(後述)、また国王恒例のマッカ視察もナイフが代行した。国王の病状は生命にかかわるようなものではなく、数日後のイード(ハジ明け)祝日には、王宮で来訪客と歓談する国王の様子が写真入りで報道された³。しかし客人に対して、立ったまま挨拶を受けることができず申し訳ない、と述べたとも伝えられ⁴、19 日に国王は再度入院を余儀なくされた⁵。

そのわずか 2 日後の昨日(日曜日)、今度は国営通信 SPA が、治療のため国王が今日(22 日)米国へ向かうと発表、同時にモロッコで静養中であったスルタン皇太子が日曜日に帰国したことを伝えた⁶。種々の報道を総合すると、脊椎の椎間板に滞留した凝固血液により国王は激しい痛みを覚えるようである。アブダッラー国王の米国での治療期間がどの程度になるか今のところ不明である。その間の国政はスルタン皇太子及びナイフ第二副首相が代行することになるが、後述するように両名とも病歴があり、特に皇太子は昨年 1 年近く米国で治療し(病名は発表されていないが癌説が流れている⁷)、年末に帰国後もメディアに顔を出すことが少なく、静養と称して 8 月以来 3 カ月以上モ

ロッコのアガディールに滞在中だった。彼は自分が管轄する航空国防省のジェッダ空港拡張工事契約を滞在先のモロッコで署名するなど、執務に支障のない程度に健康を回復したようであるが、もし今回のことがなければまだ当分の間は帰国しなかったのではないかと思われる。

サウジアラビアの王位はこれまでいずれも国王の死去に伴って皇太子が新国王に即位しており、健康不安による生前退位と言う前例が無い。従って当面は現体制のまま執務は比較的健康的なナイフ第二副首相を中心に行われることになる。しかし 1923 年生まれ(1924 年説もある)の国王は今年 87 歳の高齢であり、政権交代の時期が迫っていることは間違いない。

2. 皇太子ほかの王族閣僚にも健康不安

皇太子であるスルタンは癌の疑いがあると言われ(上述)、アブダラー以上の健康問題を抱えている。彼の年齢は公式には 79 歳とされているが⁸、実際は国王より数歳若いだけの 80 台半ばと見られる。彼は一昨年末にニューヨークで手術を受け、帰国したのはほぼ 1 年後の昨年末であった⁹。帰国後も病状に改善は見られず、8 月に静養の為モロッコに出国したことは上に述べた通りである。

今年 77 歳になるナイフ第二副首相兼内相は現在王族閣僚の中では比較的健康的であり、国内のアル・カイダ系テロ組織摘発に辣腕をふるっているが、やはり昨年治療を受けたと伝えられている(病名不詳)¹⁰。またスルタン、ナイフの同母弟で俗に「ステイリ・セブン(ステイリ妃の 7 人の息子達)」の一人であるサルマン・リヤド州知事(73 歳)は 8 月に米国で手術を受け、その後国外で療養中であった。ここ数年リヤド州の実務は副知事のサッターム王子が代行していたが、事態が急変したため今回急遽帰国したようである。

さらにサウド外相も健康に不安を抱え昨年 9 月に脊椎の手術を受けている¹¹。サウド外相は第三代ファイサル国王の子息であり、国王、皇太子等の第二世代に対していわゆるアブドルアジズ初代国王の孫である第三世代に属する。しかし第三世代とは言え彼自身既に 69 歳であり決して若いとは言えない。このように現在権力の中枢にいるサウド家の王子たちはいずれも高齢に加え健康に問題がある。王位継承問題が現実の問題となる日が近づいていることは間違いないようである。

(図 「 ア ブ ド ル ア ジ ズ 初 代 国 王 の 王 妃 と そ の 子 息 た ち 」
<http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-3bSonsOfAbdulazizByWife.pdf> 参照)

3. 権力の世襲を進める第二世代

ベドウィンの部族社会を基盤とする湾岸 GCC 諸国はかつては自らの力で権力を奪取することが普通であった。アブドルアジズ初代国王が宿敵ラシード家を倒し、アラビア半島全域を武力制圧したことはよく知られている¹²。オマーンのカブース現国王或いはカタールのハマド現首長が宮廷クーデタで実の父親から権力を奪ったのはさほど昔の話ではない。

しかし最近はこのような下剋上による宮廷クーデタの動きは影をひそめ、権力の座を平和裏に継承するルールが生まれつつある。サウジアラビア以外の GCC 諸国では国王或いは首長の子息(通常長男)を皇太子に指名し自分の死後王位を継がせる、いわゆる「直系長子世襲制」が一般的にな

りつつある。しかし第二世代に異母兄弟の多いサウド家では系統を一本化する機運は熟していない。

後継争いをめぐってお家騒動を避けるためアブダッラー国王は2006年に「忠誠委員会」を設置した。委員会はサウド家の第二世代の王子全員(王子が故人の場合はその子息)が関与しており、後継者選びにおける一族内の平等の原則が保持されている。これはファハド前国王がスルタン、ナイフ、サルマンなど同母の弟を重用した弊害を避けるためと考えられる。

この結果、最近では王位と言う最高権力の争奪をめぐる合従連衡の動きは表向き見られない。その反面、第二世代には自己の保有する権力を息子(第三世代)に世襲させる動きが顕著になってきた。アブダッラー国王が最初の入院直後に自らが兼務していた国家警備隊最高司令官の地位を3男のムッテーブに譲ったことはその例である¹³。この人事異動では国王は副司令官で異母弟のバドル王子の職を解いている¹⁴。これは息子の司令官としての地位を盤石にするためと言えよう。一方、数十年にわたり大臣の地位を保っているスルタン国防相やナイフ内相もそれぞれ息子を国防相副大臣(ハーリド)や内相補(ムハンマド)に任命しており、いずれ大臣の地位を譲るつもりであることは間違いないであろう。(図「サウド家王族の閣僚・政府要人」<http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-1MinisterAndProminentPrince.pdf>参照)

このような動きは将来国王が交代しても現在自らが掌握している組織の勢力を温存しようとする第二世代の王族の思惑だと考えられる。

4. 予測される当面の動き

アブダッラー国王の後継国王にスルタン皇太子が即位すること既定路線である。スルタン即位後に「忠誠委員会」により次期皇太子が選任される訳である。これまでポスト・スルタンとして何人かの王族の名が下馬評にのぼっているがいずれも決定打に欠く。

サウド家はベドウィンの伝統である「話し合い(マジュリス)」を尊重する。そのため王子達はたとえ王位に対する野心があったとしても、公然と名乗りを上げることはない。「忠誠委員会」の構成メンバーは同母兄弟、異母兄弟の第二世代、そして彼らの息子達の第三世代など複雑に入り組んでおり、舞台裏で秘密裏に多数派工作に動けば、他の王族から響きを買ひむしろ逆効果になる恐れもある。

これらの事情を勘案すると、第二世代(或いはその遺児の第三世代)の王族は、当面、状況の推移を静観しつつ現在自己の保有する地位を息子達に継承し、来るべき権力交代時に備えるものと思われる。

一つ気がかりな点は国王不在中に実質的な采配を振るうスルタン、ナイフ及びサルマンの同母 3兄弟が後継者問題に何らかの手を打つ可能性が潜んでいることである。彼ら自身は全員高齢で健康問題を抱えている。そのためいずれかの家系(例えばスルタン家)の第三世代を次期皇太子とし、

他の湾岸諸国のように「直系長子世襲制」を導入する可能性も否定できない。ただこの場合、皇太子の座を巡って三家系の第三世代の王子たち（つまり互いが従兄同士の関係である）の間に軋轢が起こるかもしれない。それ以上に非ステイリシステムの 29 人の忠誠委員から強い反発の出ることが予想される。

王族が当面は事態を静観し、自己の権力基盤の補強に努めるのではないかと書いたのはそのような意味も含めてのことである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ Arab News on 2010.11.13, 'King Abdullah advised rest',
<http://arabnews.com/saudiarabia/article188518.ece>

² Khaleej Times on 2010/11/22, 'Saudi King to US for treatment of back ailment'
http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/middleeast/2010/November/middleeast_November407.xml§ion=middleeast&col=

³ Arab News on 2010.11.17, 'Recovering king receives visitors'
<http://arabnews.com/saudiarabia/article193314.ece>

⁴ Arab News on 2010/11/22, 'King to leave for treatment in US; Sultan returns',
<http://arabnews.com/saudiarabia/article197744.ece>

⁵ Arab News on 2010/11/20, 'King Abdullah advised more rest',
<http://arabnews.com/saudiarabia/article196315.ece>

⁶ Arab News on 2010/11/22, 'King to leave for treatment in US; Sultan returns',
<http://arabnews.com/saudiarabia/article197744.ece>

⁷ Khaleej Times on 2010/11/22, 'Saudi King to US for treatment of back ailment'
http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/middleeast/2010/November/middleeast_November407.xml§ion=middleeast&col=

⁸ Khaleej Times on 2010/11/22, 'Saudi King to US for treatment of back ailment'
http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/middleeast/2010/November/middleeast_November407.xml§ion=middleeast&col=

⁹ Arab News on 2009/12/12, 'Saudi crown prince returns home after a year'
http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/middleeast/2009/December/middleeast_December235.xml§ion=middleeast&col=

¹⁰ Khaleej Times on 2010/11/22, 'Saudi King to US for treatment of back ailment'
http://www.khaleejtimes.com/displayarticle.asp?xfile=data/middleeast/2010/November/middleeast_November407.xml§ion=middleeast&col=

¹¹ Arab News on 2009/9/13, 'Saudi undergoes spinal surgery'
<http://www.arabnews.com/?page=1§ion=0&article=126359&d=13&m=9&y=2009>

¹² 弊稿中東協力センターニュース 2010 年 2/3 月号「GCC 諸国の王家・首長家(第7回)サウド家」
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0138RulingHouseAlSaud.pdf>参照

¹³ Arab News on 2010/11/18, 'Prince Miteb named commander of National Guard',
<http://arabnews.com/saudi Arabia/article194607.ece>

¹⁴ 同上